

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年10月24日
【発行者名】	大和住銀投信投資顧問株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横井 正道
【本店の所在の場所】	東京都千代田区霞が関三丁目2番1号
【事務連絡者氏名】	ディスクロージャー部 宮崎 洋行
【電話番号】	03-6205-0200
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）/マーケット ・コース（ヘッジなし）
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】	ニュートラル・コース：1兆円を上限とします。 マーケット・コース：1兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

平成23年4月22日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の記載事項のうち、半期報告書の提出等に伴う訂正事項がありますので、本訂正届出書を提出するものであります。

2【訂正箇所および訂正事項】

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1 ファンドの性格

(1) ファンドの目的及び基本的性格

ファンドの特色

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

1 マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ投資を行い、銘柄調査を重視したアクティブ運用を行います。

- 運用にあたっては、ボトムアップ・アプローチにより、「ファンダメンタル価値と対比して割安なバリューストック」と「将来収益への成長期待が高いグロース銘柄」を中心に投資します。
- 組織運用による銘柄選定、業種別・規模別配分等を行います。

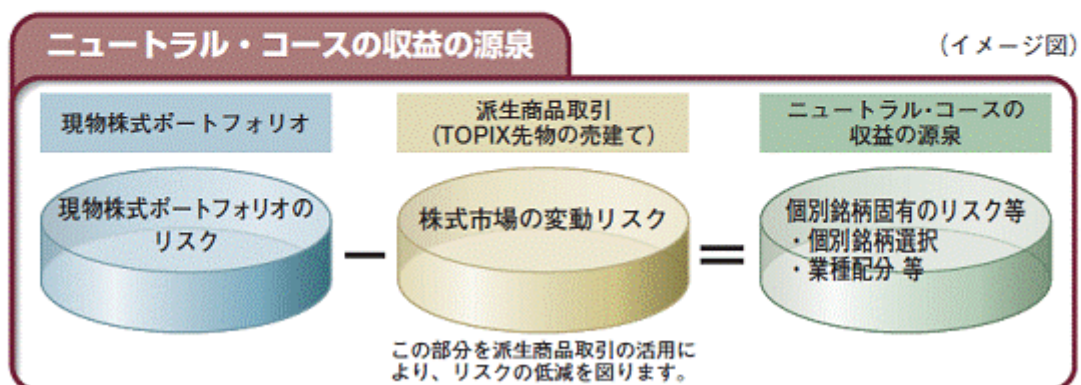
2 株式市場の変動リスクのヘッジを行うニュートラル・コースとヘッジを行わないマーケット・コースがあります。

- 実質株式組入についてヘッジを行い、株式市場の変動リスクの低減を図るニュートラル・コースとヘッジを行わないマーケット・コースがあります。

■ニュートラル・コース(ヘッジあり)

株価指数先物取引等の派生商品取引の活用により、株式市場の変動リスクの低減を図りつつ、安定的な収益の獲得を目指します。

- ニュートラル・コースでは、主として組入れられたマザーファンド(現物株式ポートフォリオ)の損益と派生商品取引(主にTOPIX先物の売建てを活用)の損益の合計により、当コースの収益が決定されます。これにより、当コースにおける主な収益の源泉は、個別銘柄選択・業種配分等となります。



※ TOPIX先物を活用した場合、マザーファンドの組入れは概ね信託財産の純資産総額の80%程度となります。

■マーケット・コース(ヘッジなし)

TOPIX（東証株価指数）をベンチマークとし、ベンチマークに対するリスクコントロールを重視しつつ、ベンチマークを安定的に上回る投資成果を目指します。

- TOPIX（東証株価指数）は、東証市場第一部の時価総額の動きをあらわす株価指数であり、株式会社東京証券取引所が算出、公表を行っています。TOPIXは東証市場第一部に上場しているすべての銘柄を計算の対象としており、東証市場第一部の時価総額を基準時価総額（昭和43年1月4日における東証市場第一部全銘柄の時価総額を100とする。）で除して算出されます。有償増資、新規上場や上場廃止など、市況変動以外の要因で時価総額が変動する場合には、連続性を維持するために、基準時価総額がその都度修正されます。TOPIXは、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。株式会社東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＜マザーファンドの特色＞

1. わが国の株式を主要投資対象とし、銘柄調査を重視したアクティブ運用を行います。
 - ・運用にあたっては、ボトムアップ・アプローチにより、「ファンダメンタル価値と対比して割安なバリュー銘柄」と「将来収益への成長期待が高いグロース銘柄」を中心に投資します。
 - ・組織運用による銘柄選定、業種別・規模別配分等を行います。
2. TOPIX（東証株価指数）をベンチマークとし、ベンチマークに対するリスクコントロールを重視しつつ、ベンチマークを安定的に上回る投資成果を目指します。

運用スタイル	ファンダメンタル・アプローチをベースとしたリサーチ・アクティブ運用。 特定なスタイルに極端に偏ることなく、“バリュー”と“グロース”の双方をふまえた運用。
銘柄選択	独自の「バリュエーション評価モデル」による定量分析と社内アナリストとファンドマネージャーによるボトムアップ・アプローチによる定性分析の組み合わせで銘柄選択をします。
業種別・規模別配分	トップダウン・アプローチとアナリスト等によるボトムアップを融合することで業種配分等を決定します。
リスクコントロール	ベンチマーク特性との乖離を意識してリスクコントロールを行います。

3 毎年1月24日（休業日の場合は翌営業日）の決算時に収益の分配を目指します。

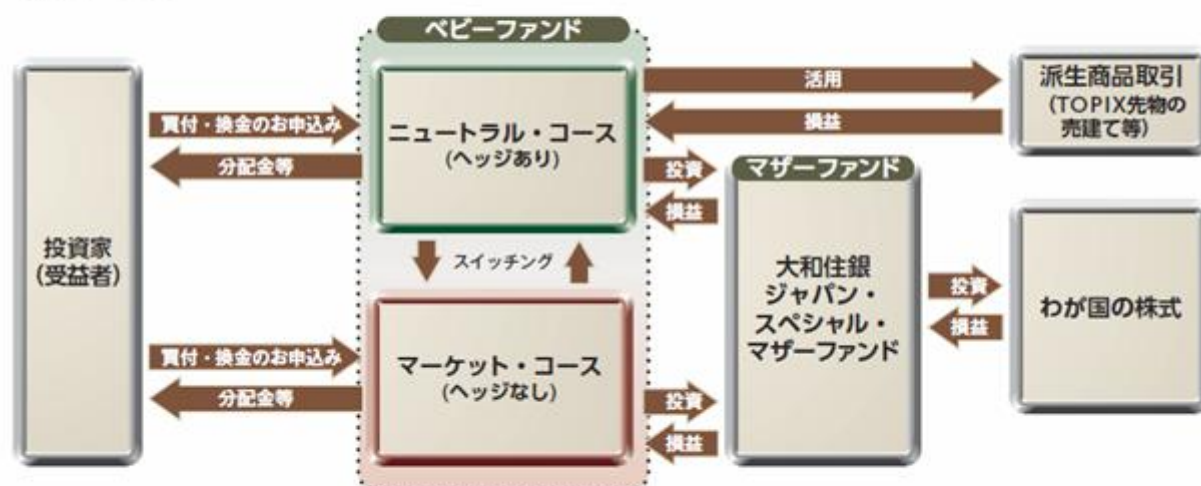
- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。
- 収益分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額な場合等には分配を行わないことがあります。
- 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※資金動向、市況動向、残存期間等によっては、またはやむを得ない事情が発生した場合は上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの仕組み

運用はファミリーファンド方式で行います。

ファミリーファンド方式とは、投資家の皆様からご投資いただいた資金をまとめてベビーファンド（ニュートラル・コース／マーケット・コース）とし、その資金をマザーファンド（大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド）に投資して、その実質的な運用を行う仕組みです。なお、ベビーファンド（ニュートラル・コース／マーケット・コース）から有価証券等に直接投資する場合もあります。



- 投資家の皆様は、どちらかのコースを選択することができます。また、販売会社によっては、ニュートラル・コース、マーケット・コース間でのスイッチングが可能です。

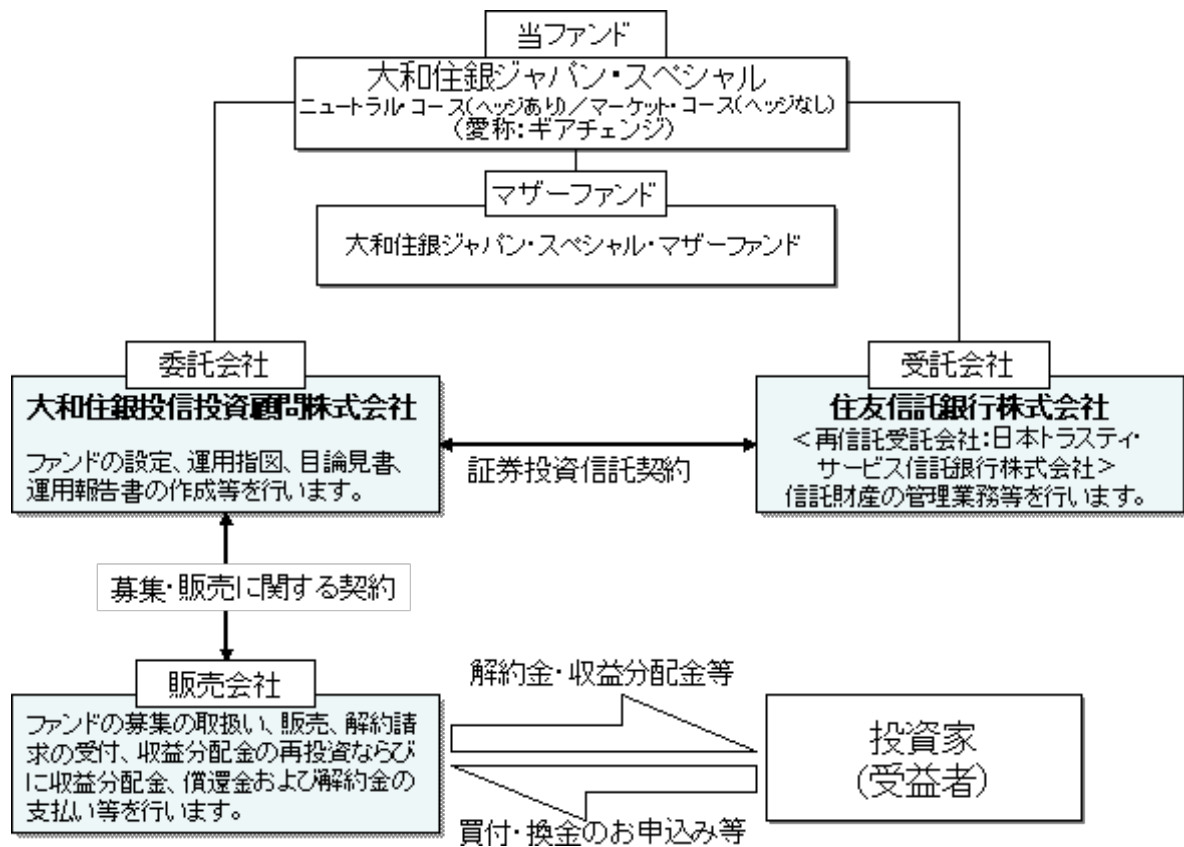
※スイッチングによるお買付は、スイッチング手数料がかかります。

※スイッチングによる解約の際には、譲渡益に対して課税されます。

[次へ](#)

(3) ファンドの仕組み
下線部が訂正部分です。

< 訂正前 >



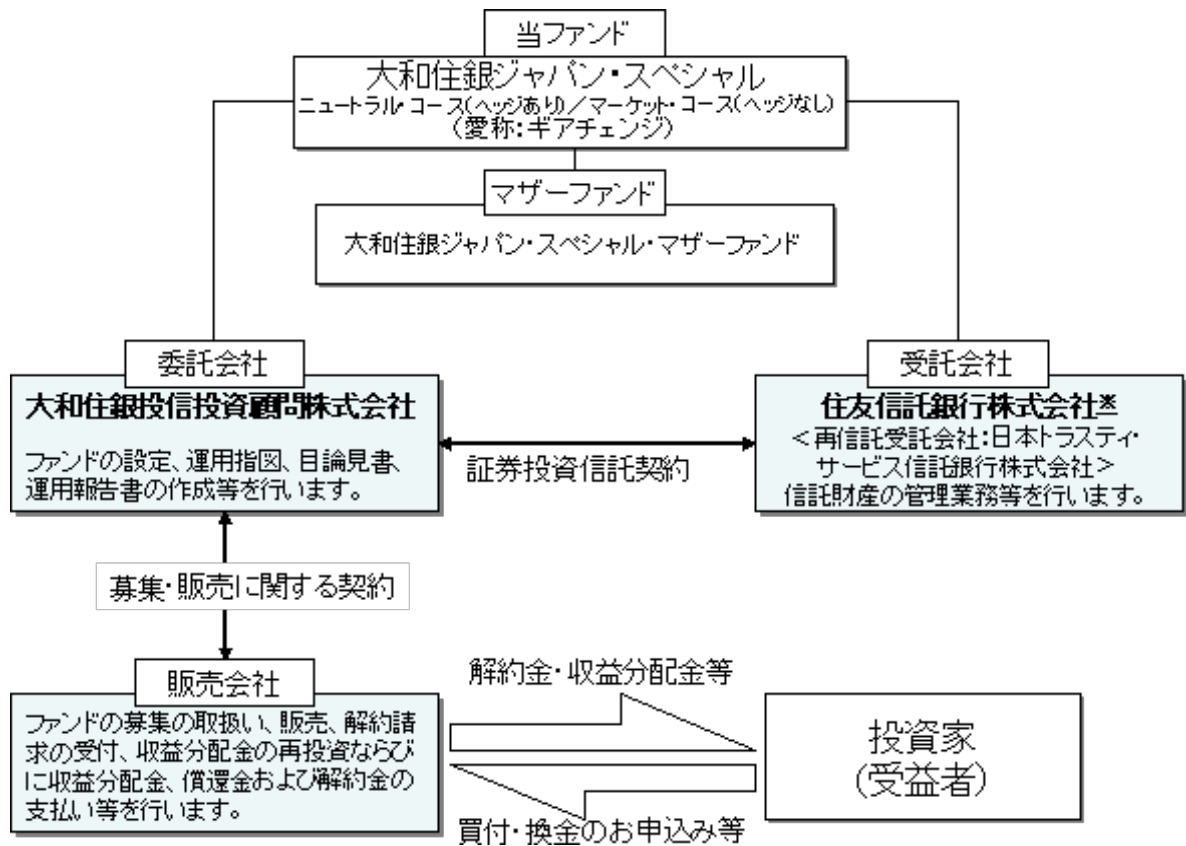
委託会社等が関係法人と締結している契約等の概要

(以下略)

委託会社等の概況（平成23年2月末現在）

(以下略)

< 訂正後 >



住友信託銀行株式会社は、関係当局の認可等を前提に、平成24年4月1日付で中央三井信託銀行株式会社および中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、三井住友信託銀行株式会社に商号を変更する予定です。本書において、以下同じです。

委託会社等が関係法人と締結している契約等の概要

(以下略)

委託会社等の概況（平成23年8月末現在）

(以下略)

2 投資方針

下線部が訂正部分です。

< 訂正前 >

(3) 運用体制

(以下略)

* 当ファンドの運用体制に係る運用本部の人員数は、平成23年2月末現在で約100名です。

(以下略)

(4) 配分方針

毎決算時（毎年1月24日。ただし、休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

(以下略)

八．留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

(以下略)

< 訂正後 >

(3) 運用体制

(以下略)

* 当ファンドの運用体制に係る運用本部の人員数は、平成23年8月末現在で約100名です。

(以下略)

(4) 配分方針

毎決算時（毎年1月24日。ただし、休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

(以下略)

八．留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

（以下略）

3 投資リスク

下線部が訂正部分です。

<訂正前>

<当ファンドの有するリスク>

当ファンドは、マザーファンドを通じて、実質的に株式など値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。

信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

当ファンドの投資目的は確実に達成されるものではなく、元本および元本からの収益を確保する保証はありません。

投資家の皆様におかれましては、当ファンドの内容とリスクを十分ご理解のうえお申込みくださいますよう、よろしく願いいたします。

（以下略）

<その他の留意点>

(1)繰上償還について

（以下略）

(2)株価変動等のリスクヘッジに関わる留意点

（以下略）

(3)ベンチマークに関する留意点

（以下略）

(4)換金請求の受付に関する留意点

（以下略）

(5)クーリング・オフについて

（以下略）

(6)法令・税制・会計等の変更可能性について

（以下略）

<訂正後>

<当ファンドの有するリスク>

当ファンドは、マザーファンドを通じて、実質的に株式など値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドの投資目的は確実に達成されるものではなく、元本および元本からの収益を確保する保証はありません。

投資家の皆様におかれましては、当ファンドの内容とリスクを十分ご理解のうえお申込みくださいますよう、よろしく願いいたします。

（以下略）

<その他の留意点>

(1) 収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

(2) 繰上償還について

（以下略）

(3) 株価変動等のリスクヘッジに関わる留意点

（以下略）

(4) ベンチマークに関する留意点

（以下略）

(5) 換金請求の受付に関する留意点

（以下略）

(6) クーリング・オフについて

（以下略）

(7) 法令・税制・会計等の変更可能性について

（以下略）

4 手数料等及び税金

下線部が訂正部分です。

< 訂正前 >

(5) 課税上の取扱い

(以下略)

個人の受益者に対する課税

< 平成23年12月31日まで >

(以下略)

< 平成24年1月1日以降 >

(以下略)

法人の受益者に対する課税

< 平成23年12月31日まで >

(以下略)

< 平成24年1月1日以降 >

(以下略)

< 訂正後 >

(5) 課税上の取扱い

(以下略)

個人の受益者に対する課税

< 平成25年12月31日まで >

(以下略)

< 平成26年1月1日以降 >

(以下略)

法人の受益者に対する課税

< 平成25年12月31日まで >

(以下略)

< 平成26年1月1日以降 >

(以下略)

[次へ](#)

5 運用状況

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

(1) 投資状況

（平成23年8月末現在）

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
親投資信託受益証券 （大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド）	日本	4,877,503,800	70.85%
純資産総額		6,883,831,308	-

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
親投資信託受益証券 （大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド）	日本	2,651,844,607	95.70%
純資産総額		2,770,967,471	-

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの投資状況>

（平成23年8月末現在）

大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
株式	日本	10,196,697,500	95.64%
純資産総額		10,661,401,482	-

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

（平成23年8月末現在）

イ．主要銘柄の明細

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド 日本	親投資信託受益証券 -	3,903,876,901	1.4334 5,596,134,751	1.2494 4,877,503,800	- -	70.85%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド 日本	親投資信託受益証券 -	2,122,494,483	1.4386 3,053,468,380	1.2494 2,651,844,607	- -	95.70%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの主要銘柄の明細>

大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ 日本	株式 銀行業	1,050,600	427 449,026,350	344 361,406,400	- -	3.39%
2	トヨタ自動車 日本	株式 輸送用機器	101,600	3,426 348,165,004	2,734 277,774,400	- -	2.61%
3	三井物産 日本	株式 卸売業	203,900	1,382 281,909,610	1,302 265,477,800	- -	2.49%
4	みずほフィナンシャルグループ 日本	株式 銀行業	1,885,800	149 282,435,783	116 218,752,800	- -	2.05%
5	三菱商事 日本	株式 卸売業	117,900	2,297 270,892,572	1,827 215,403,300	- -	2.02%
6	エヌ・ティ・ティ・ドコモ 日本	株式 情報・通信業	1,553	147,322 228,791,961	138,600 215,245,800	- -	2.02%
7	キヤノン 日本	株式 電気機器	59,400	3,991 237,079,548	3,595 213,543,000	- -	2.00%
8	伊藤忠商事 日本	株式 卸売業	257,700	834 215,161,686	820 211,314,000	- -	1.98%
9	本田技研工業 日本	株式 輸送用機器	83,200	3,403 283,209,639	2,474 205,836,800	- -	1.93%
10	ファナック 日本	株式 電気機器	12,800	12,541 160,531,221	12,620 161,536,000	- -	1.52%
11	ブリヂストン 日本	株式 ゴム製品	91,800	1,696 155,716,625	1,695 155,601,000	- -	1.46%
12	日産自動車 日本	株式 輸送用機器	222,800	794 177,017,739	697 155,291,600	- -	1.46%
13	三菱重工業 日本	株式 機械	462,000	343 158,921,549	323 149,226,000	- -	1.40%
14	三菱電機 日本	株式 電気機器	192,000	875 168,170,318	760 145,920,000	- -	1.37%

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数 口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
15	村田製作所 日本	株式 電気機器	31,100	5,531 172,041,525	4,660 144,926,000	- -	1.36%
16	セブン&アイ・ホールディングス 日本	株式 小売業	68,300	2,115 144,486,660	2,018 137,829,400	- -	1.29%
17	日立製作所 日本	株式 電気機器	327,000	447 146,257,244	413 135,051,000	- -	1.27%
18	日本電信電話 日本	株式 情報・通信業	35,100	3,778 132,613,807	3,555 124,780,500	- -	1.17%
19	三井不動産 日本	株式 不動産業	93,000	1,559 145,040,118	1,282 119,226,000	- -	1.12%
20	住友不動産 日本	株式 不動産業	74,000	1,647 121,888,706	1,608 118,992,000	- -	1.12%
21	三井住友トラスト・ホールディングス 日本	株式 銀行業	445,000	348 155,122,679	258 114,810,000	- -	1.08%
22	アステラス製薬 日本	株式 医薬品	37,700	3,081 116,186,850	2,878 108,500,600	- -	1.02%
23	JXホールディングス 日本	株式 石油・石炭製品	223,800	555 124,223,799	482 107,871,600	- -	1.01%
24	新日本製鐵 日本	株式 鉄鋼	450,000	242 109,064,397	229 103,050,000	- -	0.97%
25	武田薬品工業 日本	株式 医薬品	26,800	3,561 95,458,319	3,695 99,026,000	- -	0.93%
26	デンソー 日本	株式 輸送用機器	37,200	2,907 108,169,091	2,427 90,284,400	- -	0.85%
27	クボタ 日本	株式 機械	140,000	623 87,321,590	626 87,640,000	- -	0.82%
28	日本触媒 日本	株式 化学	91,000	934 85,065,430	956 86,996,000	- -	0.82%
29	田辺三菱製薬 日本	株式 医薬品	66,000	1,341 88,569,763	1,286 84,876,000	- -	0.80%
30	カブコン 日本	株式 情報・通信業	38,000	2,051 77,958,368	2,226 84,588,000	- -	0.79%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）

種類別	投資比率
親投資信託受益証券	70.85%
合計	70.85%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）

種類別	投資比率
親投資信託受益証券	95.70%
合計	95.70%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの投資有価証券の種類別投資比率>

大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド

種類別	投資比率
株式	95.64%
合計	95.64%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）
該当事項はありません。

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）
該当事項はありません。

<参考：マザーファンドの投資株式の業種別投資比率>

大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド

業種別	投資比率
（国内）	
電気機器	12.97%
輸送用機器	9.20%
銀行業	8.81%
情報・通信業	8.37%
化学	6.68%
卸売業	6.49%
小売業	5.85%
機械	5.72%
不動産業	3.60%
医薬品	3.53%
建設業	2.62%
鉄鋼	2.40%
サービス業	2.30%

業種別	投資比率
その他金融業	2.25%
電気・ガス業	2.13%
非鉄金属	1.75%
陸運業	1.73%
ゴム製品	1.68%
食料品	1.47%
石油・石炭製品	1.01%
精密機器	0.98%
その他製品	0.85%
保険業	0.75%
証券、商品先物取引業	0.53%
パルプ・紙	0.49%
鉱業	0.45%
繊維製品	0.40%
金属製品	0.26%
ガラス・土石製品	0.14%
水産・農林業	0.13%
倉庫・運輸関連業	0.10%
小計	95.64%
合計	95.64%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該業種の時価の比率です。

投資不動産物件

(平成23年8月末現在)

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース(ヘッジあり)

該当事項はありません。

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース(ヘッジなし)

該当事項はありません。

<参考：マザーファンドの投資不動産物件>

大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

(平成23年8月末現在)

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース(ヘッジあり)

種類	地域	資産名	買建 / 売建	数量	簿価(円)	時価(円)	投資比率
株価指数先物	日本	TOPIX 先物 2309月	売建	630	5,103,230,887	4,857,300,000	70.56%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）

種類	地域	資産名	買建 / 売建	数量	簿価(円)	時価(円)	投資比率
株価指数先物	日本	TOPIX 先物 2309月	買建	14	114,868,582	107,940,000	3.90%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

<参考：マザーファンドのその他投資資産の主要なもの>

大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド

種類	地域	資産名	買建 / 売建	数量	簿価(円)	時価(円)	投資比率
株価指数先物	日本	TOPIX 先物 2309月	買建	55	442,912,990	424,050,000	3.98%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

(3)運用実績

純資産の推移

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
設定時 （平成14年1月25日）	4,983	-	1.0000	-
第1計算期間末 （平成15年1月24日）	4,050	4,065	1.0004	1.0039
第2計算期間末 （平成16年1月26日）	2,924	3,081	1.0004	1.0544
第3計算期間末 （平成17年1月24日）	5,942	6,108	1.0004	1.0284
第4計算期間末 （平成18年1月24日）	6,266	6,641	1.0027	1.0627
第5計算期間末 （平成19年1月24日）	6,895	6,898	1.0003	1.0008
第6計算期間末 （平成20年1月24日）	6,057	6,247	1.0004	1.0319
第7計算期間末 （平成21年1月26日）	5,821	-	0.9877	-
第8計算期間末 （平成22年1月25日）	5,204	-	0.9989	-
平成22年9月末日	4,400	-	0.9980	-
平成22年10月末日	4,450	-	1.0095	-
平成22年11月末日	4,431	-	1.0075	-
平成22年12月末日	4,451	-	1.0121	-
第9計算期間末 （平成23年1月24日）	4,409	4,453	1.0030	1.0130
平成23年1月末日	4,420	-	1.0040	-
平成23年2月末日	5,774	-	1.0071	-
平成23年3月末日	6,884	-	1.0028	-
平成23年4月末日	6,869	-	1.0007	-
平成23年5月末日	7,771	-	1.0025	-
平成23年6月末日	7,738	-	0.9983	-
平成23年7月末日	6,902	-	1.0060	-
平成23年8月末日	6,883	-	1.0035	-

（注）純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
設定時 （平成14年1月25日）	1,468	-	1.0000	-
第1計算期間末 （平成15年1月24日）	2,402	-	0.8899	-
第2計算期間末 （平成16年1月26日）	3,605	4,126	1.0387	1.1887
第3計算期間末 （平成17年1月24日）	5,338	6,132	1.0077	1.1577
第4計算期間末 （平成18年1月24日）	8,348	9,242	1.4001	1.5501
第5計算期間末 （平成19年1月24日）	8,195	9,096	1.3646	1.5146
第6計算期間末 （平成20年1月24日）	6,049	6,289	1.0080	1.0480
第7計算期間末 （平成21年1月26日）	4,233	-	0.5932	-

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第8計算期間末 （平成22年1月25日）	4,734	-	0.7500	-
平成22年9月末日	5,283	-	0.6772	-
平成22年10月末日	5,229	-	0.6704	-
平成22年11月末日	5,551	-	0.7117	-
平成22年12月末日	5,736	-	0.7483	-
第9計算期間末 （平成23年1月24日）	5,882	-	0.7674	-
平成23年1月末日	5,832	-	0.7609	-
平成23年2月末日	4,791	-	0.7997	-
平成23年3月末日	3,230	-	0.7318	-
平成23年4月末日	3,170	-	0.7196	-
平成23年5月末日	2,208	-	0.7067	-
平成23年6月末日	2,176	-	0.7137	-
平成23年7月末日	3,029	-	0.7137	-
平成23年8月末日	2,770	-	0.6526	-

（注）純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

分配の推移

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）

期間	1口当りの分配金（円）
第1期（平成14年1月25日～平成15年1月24日）	0.0035
第2期（平成15年1月25日～平成16年1月26日）	0.0540
第3期（平成16年1月27日～平成17年1月24日）	0.0280
第4期（平成17年1月25日～平成18年1月24日）	0.0600
第5期（平成18年1月25日～平成19年1月24日）	0.0005
第6期（平成19年1月25日～平成20年1月24日）	0.0315
第7期（平成20年1月25日～平成21年1月26日）	0
第8期（平成21年1月27日～平成22年1月25日）	0
第9期（平成22年1月26日～平成23年1月24日）	0.0100

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）

期間	1口当りの分配金（円）
第1期（平成14年1月25日～平成15年1月24日）	0
第2期（平成15年1月25日～平成16年1月26日）	0.1500
第3期（平成16年1月27日～平成17年1月24日）	0.1500
第4期（平成17年1月25日～平成18年1月24日）	0.1500
第5期（平成18年1月25日～平成19年1月24日）	0.1500
第6期（平成19年1月25日～平成20年1月24日）	0.0400
第7期（平成20年1月25日～平成21年1月26日）	0
第8期（平成21年1月27日～平成22年1月25日）	0
第9期（平成22年1月26日～平成23年1月24日）	0

収益率の推移

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）

期間	収益率
第1期（平成14年1月25日～平成15年1月24日）	0.4%
第2期（平成15年1月25日～平成16年1月26日）	5.4%
第3期（平成16年1月27日～平成17年1月24日）	2.8%
第4期（平成17年1月25日～平成18年1月24日）	6.2%
第5期（平成18年1月25日～平成19年1月24日）	0.2%
第6期（平成19年1月25日～平成20年1月24日）	3.2%
第7期（平成20年1月25日～平成21年1月26日）	1.3%
第8期（平成21年1月27日～平成22年1月25日）	1.1%
第9期（平成22年1月26日～平成23年1月24日）	1.4%
第10期中（平成23年1月25日～平成23年7月24日）	0.2%

（注）収益率 = (当計算期末分配基準価額 - 前計算期末分配基準価額) ÷ 前計算期末分配基準価額 × 100

大和住銀ジャパン・スペシャル・マーケット・コース（ヘッジなし）

期間	収益率
第1期（平成14年1月25日～平成15年1月24日）	11.0%
第2期（平成15年1月25日～平成16年1月26日）	33.6%
第3期（平成16年1月27日～平成17年1月24日）	11.5%
第4期（平成17年1月25日～平成18年1月24日）	53.8%
第5期（平成18年1月25日～平成19年1月24日）	8.2%
第6期（平成19年1月25日～平成20年1月24日）	23.2%
第7期（平成20年1月25日～平成21年1月26日）	41.2%
第8期（平成21年1月27日～平成22年1月25日）	26.4%
第9期（平成22年1月26日～平成23年1月24日）	2.3%
第10期中（平成23年1月25日～平成23年7月24日）	4.6%

（注）収益率 = (当計算期末分配基準価額 - 前計算期末分配基準価額) ÷ 前計算期末分配基準価額 × 100

(参考情報)



主要な資産の状況

ニュートラル・コース

投資銘柄	投資比率
大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド	70.9%

●参考情報

大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド

上位10銘柄

順位	投資銘柄	業種	投資比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.4%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	2.6%
3	三井物産	卸売業	2.5%
4	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	2.1%
5	三菱商事	卸売業	2.0%
6	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	2.0%
7	キヤノン	電気機器	2.0%
8	伊藤忠商事	卸売業	2.0%
9	本田技研工業	輸送用機器	1.9%
10	ファナック	電気機器	1.5%

*投資比率は全て純資産総額対比 *業種は東証33業種分類

マーケット・コース

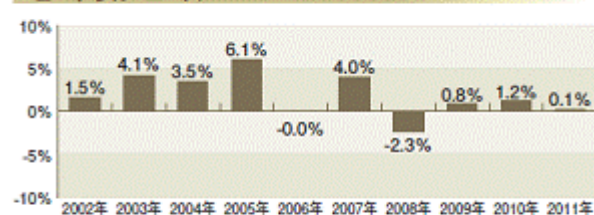
投資銘柄	投資比率
大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド	95.7%

上位10業種

順位	業種	投資比率
1	電気機器	13.0%
2	輸送用機器	9.2%
3	銀行業	8.8%
4	情報・通信業	8.4%
5	化学	6.7%
6	卸売業	6.5%
7	小売業	5.8%
8	機械	5.7%
9	不動産業	3.6%
10	医薬品	3.5%

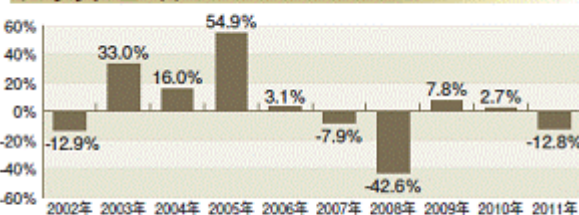
年間収益率の推移

ニュートラル・コース



*ファンドの収益率は暦年ベースで表示しております。但し、2002年は当初設定日(2002年1月25日)から年末までの収益率、2011年は8月末までの収益率です。
*ファンドの年間収益率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しております。
*ニュートラル・コースには、ベンチマークはありません。

マーケット・コース



- ・ファンドの運用実績はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
- ・ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示している場合があります。

(4) 設定及び解約の実績

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）

期間	設定総額（円）	解約総額（円）
第1期（平成14年1月25日～平成15年1月24日）	10,451,342,819	6,401,788,466
第2期（平成15年1月25日～平成16年1月26日）	2,403,389,398	3,530,221,588
第3期（平成16年1月27日～平成17年1月24日）	5,554,137,165	2,537,032,283
第4期（平成17年1月25日～平成18年1月24日）	1,602,173,685	1,292,192,254
第5期（平成18年1月25日～平成19年1月24日）	2,373,617,889	1,729,727,416
第6期（平成19年1月25日～平成20年1月24日）	481,071,194	1,320,227,937
第7期（平成20年1月25日～平成21年1月26日）	306,139,777	466,278,042
第8期（平成21年1月27日～平成22年1月25日）	251,882	684,577,584
第9期（平成22年1月26日～平成23年1月24日）	1,287,522	814,543,080
第10期中（平成23年1月25日～平成23年7月24日）	3,368,772,359	614,311,213

（注）本邦外における設定及び解約の実績はありません。

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）

期間	設定総額（円）	解約総額（円）
第1期（平成14年1月25日～平成15年1月24日）	4,251,320,257	1,552,113,561
第2期（平成15年1月25日～平成16年1月26日）	3,207,030,452	2,435,244,202
第3期（平成16年1月27日～平成17年1月24日）	3,141,536,070	1,315,192,413
第4期（平成17年1月25日～平成18年1月24日）	2,115,748,620	1,450,398,201
第5期（平成18年1月25日～平成19年1月24日）	1,572,458,219	1,529,284,867
第6期（平成19年1月25日～平成20年1月24日）	750,278,764	754,129,960
第7期（平成20年1月25日～平成21年1月26日）	2,301,462,252	1,167,009,846
第8期（平成21年1月27日～平成22年1月25日）	625,781,008	1,449,369,936
第9期（平成22年1月26日～平成23年1月24日）	1,541,197,717	187,939,344
第10期中（平成23年1月25日～平成23年7月24日）	843,271,982	4,635,597,254

（注）本邦外における設定及び解約の実績はありません。

[前へ](#)

第3【ファンドの経理状況】

1 財務諸表

原届出書の財務諸表の直後に、下記事項が追加されます。

1. 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

ただし、前中間計算期間（平成22年1月26日から平成22年7月25日まで）については、改正前の中間財務諸表等規則及び投資信託財産の計算に関する規則に基づき、当中間計算期間（平成23年1月25日から平成23年7月24日まで）については、改正後の中間財務諸表等規則及び投資信託財産の計算に関する規則に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表に記載されている金額は、円単位で表示しております。

2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前中間計算期間（平成22年1月26日から平成22年7月25日まで）及び当中間計算期間（平成23年1月25日から平成23年7月24日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による中間監査を受けております。

[次へ](#)

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）

（１）中間貸借対照表

区 分	前中間計算期間末 平成22年7月25日現在 金額（円）	当中間計算期間末 平成23年7月24日現在 金額（円）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	1,251,604,052	1,349,267,268
親投資信託受益証券	3,896,703,121	5,480,169,927
派生商品評価勘定	48,566,072	-
未収入金	-	280,000,000
未収利息	6,240	5,782
前払金	-	310,151,000
差入委託証拠金	145,530,000	432,630,000
流動資産合計	5,342,409,485	7,852,223,977
資産合計	5,342,409,485	7,852,223,977
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	-	360,725,043
前受金	134,472,000	-
未払解約金	-	300,630,000
未払受託者報酬	2,168,643	2,721,802
未払委託者報酬	24,940,002	31,301,196
その他未払費用	243,884	306,114
流動負債合計	161,824,529	695,684,155
負債合計	161,824,529	695,684,155
純資産の部		
元本等		
元本	5,197,867,123	7,151,283,827
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	17,282,167	5,255,995
（分配準備積立金）	648,596	10,874,265
元本等合計	5,180,584,956	7,156,539,822
純資産合計	5,180,584,956	7,156,539,822
負債純資産合計	5,342,409,485	7,852,223,977

(2) 中間損益及び剰余金計算書

区 分	前中間計算期間 自 平成22年 1月26日 至 平成22年 7月25日 金 額 (円)	当中間計算期間 自 平成23年 1月25日 至 平成23年 7月24日 金 額 (円)
営業収益		
受取利息	515,347	489,841
有価証券売買等損益	337,741,686	178,820,258
派生商品取引等損益	352,833,267	193,923,975
営業収益合計	15,606,928	15,593,558
営業費用		
受託者報酬	2,168,643	2,721,802
委託者報酬	24,940,002	31,301,196
その他費用	243,884	306,114
営業費用合計	27,352,529	34,329,112
営業利益又は営業損失()	11,745,601	18,735,554
経常利益又は経常損失()	11,745,601	18,735,554
中間純利益又は中間純損失()	11,745,601	18,735,554
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う中間純損失金額の分配額()	7,299	1,978,180
期首剰余金又は期首欠損金()	5,559,370	13,118,910
剰余金増加額又は欠損金減少額	18,580	10,769,741
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	18,580	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	10,769,741
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,075	1,875,282
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	1,875,282
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	3,075	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金()	17,282,167	5,255,995

[次へ](#)

(3) 中間注記表
(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	前中間計算期間 自 平成22年 1月26日 至 平成22年 7月25日	当中間計算期間 自 平成23年 1月25日 至 平成23年 7月24日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。	親投資信託受益証券 同左
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	個別法に基づき原則として時価で評価しております。	同左
3. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益及び派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。	有価証券売買等損益及び派生商品取引等損益 同左
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの中間計算期間は、前計算期末が休日のため、平成22年 1月26日から平成22年 7月25日までとなっております。	-

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	前中間計算期間末 平成22年 7月25日現在	当中間計算期間末 平成23年 7月24日現在
1. 元本状況		
期首元本額	5,210,078,239円	4,396,822,681円
期中追加設定元本額	1,287,522円	3,368,772,359円
期中一部解約元本額	13,498,638円	614,311,213円
2. 受益権の総数	5,197,867,123口	7,151,283,827口
3. 元本の欠損	17,282,167円	-

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

前中間計算期間（自 平成22年 1月26日 至 平成22年 7月25日）

該当事項はありません。

当中間計算期間（自 平成23年 1月25日 至 平成23年 7月24日）

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

(追加情報)

当中間計算期間より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年 3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年 3月10日）を適用しております。

金融商品の時価等に関する事項

項目	当中間計算期間末 平成23年 7月24日現在
1. 金融商品の時価及び中間貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。

2. 時価の算定方法

- (1) 有価証券
重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。
- (2) デリバティブ取引
デリバティブ取引等関係に関する注記に記載しております。
- (3) 金銭債権及び金銭債務
短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としております。

（デリバティブ取引等関係に関する注記）
前中間計算期間末(平成22年7月25日現在)
取引の時価等に関する事項
（株式関連）

区分	種類	前中間計算期間末 平成22年7月25日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 売建 T O P I X	3,940,916,072	-	3,892,350,000	48,566,072
合計		-	-	3,892,350,000	48,566,072

（注）時価の算定方法

- 1) 先物取引の残高表示は、契約額によっております。
- 2) 期末の評価においては、取引所の発表する計算日の清算値段等を用いております。

当中間計算期間末(平成23年7月24日現在)
ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
（株式関連）

区分	種類	当中間計算期間末 平成23年7月24日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 売建 T O P I X	5,087,904,957	-	5,448,630,000	360,725,043
合計		-	-	5,448,630,000	360,725,043

（注）時価の算定方法

- 1) 先物取引の残高表示は、契約額によっております。
- 2) 期末の評価においては、取引所の発表する計算日の清算値段等を用いております。

（1口当たり情報）

前中間計算期間末 平成22年7月25日現在	当中間計算期間末 平成23年7月24日現在
1口当たり純資産額 0.9967円 「1口 = 1円(10,000口 = 9,967円)」	1口当たり純資産額 1.0007円 「1口 = 1円(10,000口 = 10,007円)」

[前へ](#) [次へ](#)

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）

（１）中間貸借対照表

区 分	前中間計算期間末 平成22年7月25日現在 金額（円）	当中間計算期間末 平成23年7月24日現在 金額（円）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	189,646,155	110,362,878
親投資信託受益証券	4,395,015,049	2,738,956,585
派生商品評価勘定	428,825	6,362,949
未収利息	944	472
前払金	5,292,000	-
差入委託証拠金	6,300,000	6,900,000
流動資産合計	4,596,682,973	2,862,582,884
資産合計	4,596,682,973	2,862,582,884
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	2,074,880	-
前受金	-	5,590,000
未払解約金	-	1,503,598
未払受託者報酬	1,977,232	1,488,588
未払委託者報酬	22,738,746	17,119,149
その他未払費用	222,357	167,378
流動負債合計	27,013,215	25,868,713
負債合計	27,013,215	25,868,713
純資産の部		
元本等		
元本	6,701,434,908	3,873,805,757
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	2,131,765,150	1,037,091,586
（分配準備積立金）	731,065,589	284,942,241
元本等合計	4,569,669,758	2,836,714,171
純資産合計	4,569,669,758	2,836,714,171
負債純資産合計	4,596,682,973	2,862,582,884

(2) 中間損益及び剰余金計算書

区 分	前中間計算期間 自 平成22年 1月26日 至 平成22年 7月25日 金 額 (円)	当中間計算期間 自 平成23年 1月25日 至 平成23年 7月24日 金 額 (円)
営業収益		
受取利息	84,042	48,526
有価証券売買等損益	409,978,097	183,574,627
派生商品取引等損益	16,424,270	2,265,031
営業収益合計	426,318,325	185,791,132
営業費用		
受託者報酬	1,977,232	1,488,588
委託者報酬	22,738,746	17,119,149
その他費用	222,357	167,378
営業費用合計	24,938,335	18,775,115
営業利益又は営業損失 ()	451,256,660	204,566,247
経常利益又は経常損失 ()	451,256,660	204,566,247
中間純利益又は中間純損失 ()	451,256,660	204,566,247
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う中間純損失金額の分配額 ()	323,824	105,029,233
期首剰余金又は期首欠損金 ()	1,577,986,175	1,783,298,988
剰余金増加額又は欠損金減少額	4,777,906	1,080,444,869
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金 減少額	4,777,906	1,080,444,869
剰余金減少額又は欠損金増加額	107,624,045	234,700,453
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金 増加額	107,624,045	234,700,453
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金 ()	2,131,765,150	1,037,091,586

[前へ](#) [次へ](#)

(3) 中間注記表
(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	前中間計算期間 自 平成22年 1月26日 至 平成22年 7月25日	当中間計算期間 自 平成23年 1月25日 至 平成23年 7月24日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。	親投資信託受益証券 同左
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	個別法に基づき原則として時価で評価しております。	同左
3. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益及び派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。	有価証券売買等損益及び派生商品取引等損益 同左
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの中間計算期間は、前計算期末が休日のため、平成22年 1月26日から平成22年 7月25日までとなっております。	-

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	前中間計算期間末 平成22年 7月25日現在	当中間計算期間末 平成23年 7月24日現在
1. 元本状況		
期首元本額	6,312,872,656円	7,666,131,029円
期中追加設定元本額	407,624,045円	843,271,982円
期中一部解約元本額	19,061,793円	4,635,597,254円
2. 受益権の総数	6,701,434,908口	3,873,805,757口
3. 元本の欠損	2,131,765,150円	1,037,091,586円

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

前中間計算期間（自 平成22年 1月26日 至 平成22年 7月25日）

該当事項はありません。

当中間計算期間（自 平成23年 1月25日 至 平成23年 7月24日）

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

(追加情報)

当中間計算期間より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年 3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年 3月10日）を適用しております。

金融商品の時価等に関する事項

項目	当中間計算期間末 平成23年 7月24日現在
1. 金融商品の時価及び中間貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額ははありません。

2. 時価の算定方法

- (1) 有価証券
重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。
- (2) デリバティブ取引
デリバティブ取引等関係に関する注記に記載しております。
- (3) 金銭債権及び金銭債務
短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としております。

（デリバティブ取引等関係に関する注記）
 前中間計算期間末(平成22年7月25日現在)
 取引の時価等に関する事項
 （株式関連）

区分	種類	前中間計算期間末 平成22年7月25日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 買建 T O P I X	170,146,055	-	168,500,000	1,646,055
合計		-	-	168,500,000	1,646,055

（注）時価の算定方法

- 1) 先物取引の残高表示は、契約額によっております。
- 2) 期末の評価においては、取引所の発表する計算日の清算値段等を用いております。

当中間計算期間末(平成23年7月24日現在)
 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
 （株式関連）

区分	種類	当中間計算期間末 平成23年7月24日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 買建 T O P I X	80,537,051	-	86,900,000	6,362,949
合計		-	-	86,900,000	6,362,949

（注）時価の算定方法

- 1) 先物取引の残高表示は、契約額によっております。
- 2) 期末の評価においては、取引所の発表する計算日の清算値段等を用いております。

（1口当たり情報）

前中間計算期間末 平成22年7月25日現在	当中間計算期間末 平成23年7月24日現在
1口当たり純資産額 0.6819円 「1口 = 1円(10,000口 = 6,819円)」	1口当たり純資産額 0.7323円 「1口 = 1円(10,000口 = 7,323円)」

[前へ](#) [次へ](#)

< 参考 >

当ファンドは、「大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券であります。

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド

(1) 中間貸借対照表

区 分	前中間計算期間末 平成22年7月25日現在 金額(円)	当中間計算期間末 平成23年7月24日現在 金額(円)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	140,568,316	772,317,188
株式	11,548,559,940	11,189,674,050
派生商品評価勘定	-	35,037,010
未収入金	169,283,976	78,699,184
未収配当金	5,810,400	9,002,200
未収利息	700	3,310
前払金	3,684,000	-
差入委託証拠金	3,780,000	37,950,000
流動資産合計	11,871,687,332	12,122,682,942
資産合計	11,871,687,332	12,122,682,942
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	1,120,537	-
前受金	-	30,745,000
未払金	234,398,947	98,960,494
未払解約金	-	280,000,000
流動負債合計	235,519,484	409,705,494
負債合計	235,519,484	409,705,494
純資産の部		
元本等		
元本	9,004,386,788	8,360,637,798
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	2,631,781,060	3,352,339,650
元本等合計	11,636,167,848	11,712,977,448
純資産合計	11,636,167,848	11,712,977,448
負債純資産合計	11,871,687,332	12,122,682,942

[前へ](#) [次へ](#)

(2) 中間注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	前中間計算期間		当中間計算期間	
	自 平成22年 1月26日 至 平成22年 7月25日		自 平成23年 1月25日 至 平成23年 7月24日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等の提示する気配相場に基づいて評価しております。		株式 同左	
	また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。		同左	
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	個別法に基づき原則として時価で評価しております。		同左	
3. 収益及び費用の計上基準	(1)受取配当金 国内株式についての受取配当金は、原則として、株式の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 (2)有価証券売買等損益及び派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。		(1)受取配当金 同左 (2)有価証券売買等損益及び派生商品取引等損益 同左	
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの中間計算期間は、前計算期末が休日のため、平成22年1月26日から平成22年7月25日までとなっております。		-	

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	前中間計算期間末		当中間計算期間末	
	平成22年 7月25日現在		平成23年 7月24日現在	
1. 元本状況				
期首元本額	8,475,469,644円		8,988,838,348円	
期中追加設定元本額	919,482,564円		2,409,042,064円	
期中一部解約元本額	390,535,420円		3,037,242,614円	
元本の内訳				
大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）	3,015,323,935円		3,911,613,082円	
大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）	3,400,924,746円		1,955,001,132円	
大和住銀/FOFs用日本株MN（適格機関投資家限定）	679,386,684円		334,395,341円	
大和住銀F o F用ジャパン・マーケット・ニュートラル（適格機関投資家限定）	1,850,620,950円		2,159,628,243円	
大和住銀F o F用ジャパン・アクティブ・ファンド（適格機関投資家限定）	58,130,473円		-	
合計	9,004,386,788円		8,360,637,798円	
2. 受益権の総数	9,004,386,788口		8,360,637,798口	

（金融商品に関する注記）

（追加情報）

当中間計算期間より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

金融商品の時価等に関する事項

項目	当中間計算期間末 平成23年7月24日現在
1. 金融商品の時価及び中間貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引等関係に関する注記に記載しております。 (3)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としております。

（デリバティブ取引等関係に関する注記）

前中間計算期間末(平成22年7月25日現在)

取引の時価等に関する事項

（株式関連）

区分	種類	前中間計算期間末 平成22年7月25日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 買建 T O P I X	76,945,537	-	75,825,000	1,120,537
	合計	-	-	75,825,000	1,120,537

（注）時価の算定方法

- 1) 先物取引の残高表示は、契約額によっております。
- 2) 期末の評価においては、取引所の発表する計算日の清算値段等を用いております。

当中間計算期間末(平成23年7月24日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

（株式関連）

区分	種類	当中間計算期間末 平成23年7月24日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 買建 T O P I X	442,912,990	-	477,950,000	35,037,010
	合計	-	-	477,950,000	35,037,010

（注）時価の算定方法

- 1) 先物取引の残高表示は、契約額によっております。
- 2) 期末の評価においては、取引所の発表する計算日の清算値段等を用いております。

（1口当たり情報）

前中間計算期間末 平成22年7月25日現在	当中間計算期間末 平成23年7月24日現在

1口当たり純資産額 1.2923円 「1口 = 1円(10,000口 = 12,923円)」	1口当たり純資産額 1.4010円 「1口 = 1円(10,000口 = 14,010円)」
--	--

[前](#) [次](#)

2 ファンドの現況

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

純資産額計算書

（平成23年 8月末現在）

大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）

資産総額	7,170,585,601 円
負債総額	286,754,293 円
純資産総額（ - ）	6,883,831,308 円
発行済数量	6,859,646,315 口
1単位当り純資産額（ / ）	1.0035 円

大和住銀ジャパン・スペシャル マーケット・コース（ヘッジなし）

資産総額	2,781,888,920 円
負債総額	10,921,449 円
純資産総額（ - ）	2,770,967,471 円
発行済数量	4,246,218,324 口
1単位当り純資産額（ / ）	0.6526 円

<参考：マザーファンドの純資産額計算書>

（平成23年 8月末現在）

大和住銀ジャパン・スペシャル・マザーファンド

資産総額	11,080,900,191 円
負債総額	419,498,709 円
純資産総額（ - ）	10,661,401,482 円
発行済数量	8,533,175,542 口
1単位当り純資産額（ / ）	1.2494 円

[前へ](#)

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

1 委託会社等の概況

(1) 資本金の額

資本金の額：20億円（平成23年8月末現在）

会社が発行する株式総数：12,800,000株

発行済株式総数：3,850,000株

最近5年間における主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

(2) 会社の機構

会社は、8名以内で構成される取締役により運営されます。取締役は、株主総会の決議によって選任されます。取締役の選任は、議決権を行使することができる総株主の議決権の3分の2以上を有する株主が出席し、議決権を行使することができる総株主の議決権の3分の2以上をもってこれを行います。

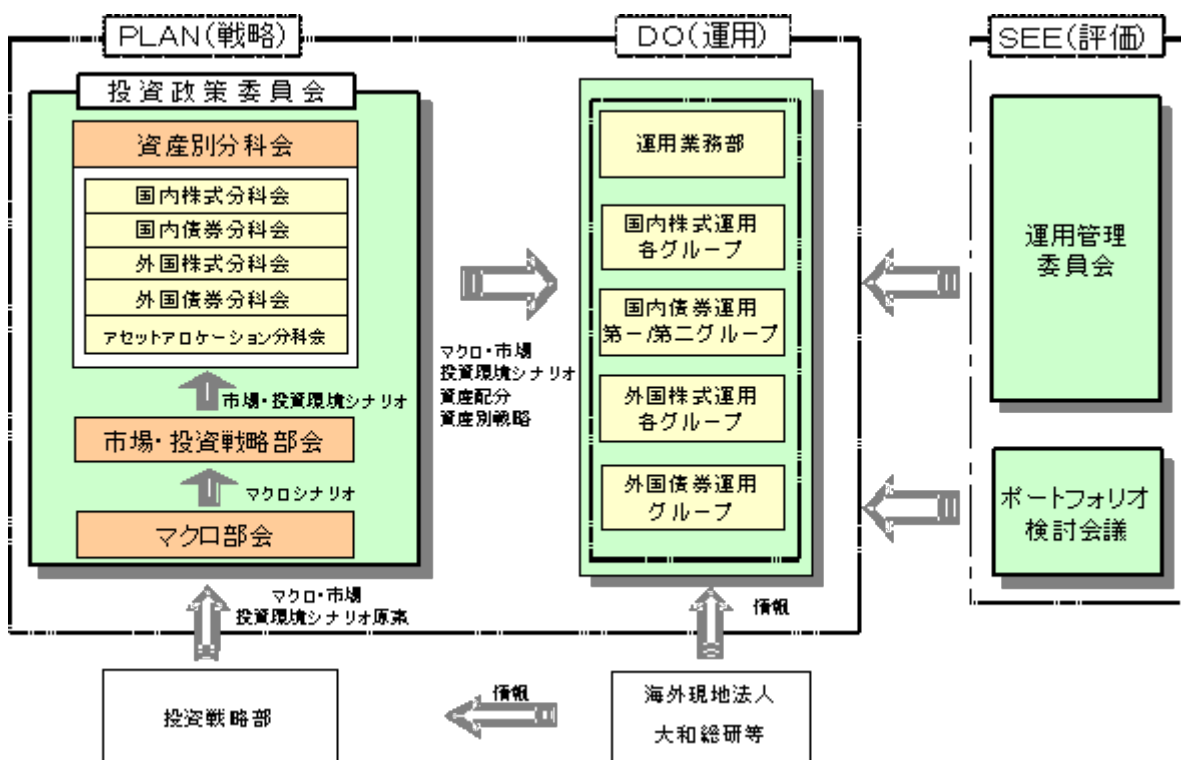
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。補欠として選任された取締役の任期は、前任取締役の任期の満了する時までとします。

取締役会は、取締役会の決議によって取締役の中から取締役社長、取締役副社長各1名、専務取締役および常務取締役若干名を選定することができます。また代表取締役は2名とし、取締役社長および取締役副社長がこれに就任します。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、代表取締役が招集し、招集通知は3日前までにこれを発します。ただし、緊急の必要があるときは、この期間を短縮することができます。

取締役会は、法令または定款に定める事項の他、業務執行に関する重要事項を決定します。その決議は、取締役の6名以上が出席し、その出席取締役の過半数をもって行います。

< 投信運用の意思決定プロセス >



2 事業の内容及び営業の概況

委託会社は、株式会社住友銀行（現株式会社三井住友フィナンシャルグループ）および大和証券株式会社（現株式会社大和証券グループ本社）の戦略的提携により平成11年4月1日付で、大和投資顧問株式会社と住銀投資顧問株式会社およびエス・ビー・アイ・エム投信株式会社の三社が合併して設立された会社です。

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

平成23年8月末現在、委託会社が運用の指図を行っている投資信託の総ファンド数は、148本であり、その純資産総額は、約2,685,831百万円です（なお、親投資信託49本は、ファンド数及び純資産総額からは除いております。）。

種類	ファンド数	純資産総額
単位型株式投資信託	3	16,612百万円
追加型株式投資信託	144	2,666,041百万円
追加型公社債投資信託	1	3,177百万円
合計	148	2,685,831百万円

[次へ](#)

3 委託会社等の経理状況

1. 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号。）に基づいて作成しております。なお、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2. 財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第38期事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表については、あずさ監査法人による監査を受け、第39期事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表については、有限責任あずさ監査法人による監査を受けております。

なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成22年7月1日をもって有限責任あずさ監査法人となりました。

[次へ](#)

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

		第38期 (平成22年3月31日)	第39期 (平成23年3月31日)
資産の部			
流動資産			
現金・預金		10,732,367	13,597,002
前払費用		158,204	167,271
未収委託者報酬		-	2,467,550
未収運用受託報酬		-	939,007
未収収益		3,018,894	32,023
繰延税金資産		401,279	503,471
その他		3	6,482
流動資産計		14,310,748	17,712,808
固定資産			
有形固定資産			
建物	1	330,961	271,199
器具備品	1	66,930	47,723
土地		710	710
リース資産		-	10,015
建設仮勘定		-	35,928
有形固定資産計		398,601	365,576
無形固定資産			
ソフトウェア		561,554	455,655
ソフトウェア仮勘定		-	1,454
電話加入権		12,706	12,706
無形固定資産計		574,261	469,816
投資その他の資産			
投資有価証券		4,474,278	4,606,283
関係会社株式		1,169,774	1,169,774
従業員長期貸付金		5,277	3,331
長期差入保証金		743,958	743,455
出資金		161,517	161,517
繰延税金資産		536,417	545,849
その他		916	2,186

貸倒引当金	73,350	73,350
投資その他の資産計	7,018,789	7,159,048
固定資産計	7,991,652	7,994,441
資産合計	22,302,401	25,707,250

(単位：千円)

	第38期 (平成22年3月31日)	第39期 (平成23年3月31日)
負債の部		
流動負債		
リース債務	-	2,841
未払金	183,571	305,187
未払手数料	-	1,159,542
未払費用	1,657,874	952,264
未払法人税等	915,515	1,586,776
前受収益	2,895	2,895
賞与引当金	715,800	831,200
役員賞与引当金	58,000	69,900
その他	18,976	18,208
流動負債計	3,552,633	4,928,817
固定負債		
リース債務	-	7,674
退職給付引当金	835,692	974,968
役員退職慰労引当金	173,442	132,000
固定負債計	1,009,135	1,114,643
負債合計	4,561,769	6,043,460

(単位：千円)

	第38期 (平成22年3月31日)	第39期 (平成23年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	156,268	156,268
資本剰余金合計	156,268	156,268
利益剰余金		
利益準備金	343,731	343,731
その他利益剰余金		
別途積立金	1,100,000	1,100,000
繰越利益剰余金	14,232,788	16,098,918
利益剰余金合計	15,676,519	17,542,649
株主資本合計	17,832,788	19,698,918
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	92,156	35,129
評価・換算差額等合計	92,156	35,129
純資産合計	17,740,631	19,663,789
負債純資産合計	22,302,401	25,707,250

(2) 損益計算書

(単位 : 千円)

	第38期	第39期
	(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
営業収益		
運用受託報酬	3,603,017	3,364,664
委託者報酬	16,956,717	24,069,333
その他営業収益	24,464	112,848
営業収益計	20,584,199	27,546,846
営業費用		
支払手数料	8,348,565	11,618,664
広告宣伝費	164,821	250,770
公告費	-	824
調査費		
調査費	1,113,852	1,159,953
委託調査費	1,923,670	3,031,399
委託計算費	118,521	126,495
営業雑経費		
通信費	29,464	29,827
印刷費	325,398	388,523
協会費	16,722	18,371
諸会費	6,036	5,711
その他	34,513	30,571
営業費用計	12,081,565	16,661,113
一般管理費		
給料		
役員報酬	205,410	208,730
給料・手当	2,717,562	2,738,220
賞与	40,152	34,776
退職金	4,038	814
福利厚生費	478,341	509,031
交際費	14,440	21,011
旅費交通費	129,350	142,945
租税公課	59,772	69,890

不動産賃借料	848,510	842,754
退職給付費用	190,115	194,442
固定資産減価償却費	119,125	91,811
賞与引当金繰入額	715,800	831,200
役員退職慰労引当金繰入額	39,640	39,130
役員賞与引当金繰入額	58,000	69,900
諸経費	233,998	255,110
一般管理費計	5,854,257	6,049,768
営業利益	2,648,375	4,835,964
営業外収益		
受取配当金	502,114	76,007
受取利息	14,130	6,368
その他	32,982	12,177
営業外収益計	549,227	94,553
営業外費用		
為替差損	8,094	11,583
その他	66	340
営業外費用計	8,160	11,923
経常利益	3,189,442	4,918,593
特別損失		
貸倒引当金繰入額	5,000	-
その他	169	340
特別損失計	5,169	340
税引前当期純利益	3,184,273	4,918,252
法人税、住民税及び事業税	1,378,026	2,240,224
法人税等調整額	168,517	150,601
法人税等合計	1,209,509	2,089,622
当期純利益	1,974,764	2,828,630

(3) 株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	第38期	第39期
	(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	2,000,000	2,000,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	156,268	156,268
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	156,268	156,268
資本剰余金合計		
前期末残高	156,268	156,268
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	156,268	156,268
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	343,731	343,731
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	343,731	343,731
その他利益剰余金		
別途積立金		
前期末残高	1,100,000	1,100,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,100,000	1,100,000
繰越利益剰余金		
前期末残高	13,220,524	14,232,788

当期変動額		
剰余金の配当	962,500	962,500
当期純利益	1,974,764	2,828,630
当期変動額合計	1,012,264	1,866,130
当期末残高	14,232,788	16,098,918
利益剰余金合計		
前期末残高	14,664,255	15,676,519
当期変動額		
剰余金の配当	962,500	962,500
当期純利益	1,974,764	2,828,630
当期変動額合計	1,012,264	1,866,130
当期末残高	15,676,519	17,542,649
株主資本合計		
前期末残高	16,820,524	17,832,788
当期変動額		
剰余金の配当	962,500	962,500
当期純利益	1,974,764	2,828,630
当期変動額合計	1,012,264	1,866,130
当期末残高	17,832,788	19,698,918
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	225,466	92,156
当期変動額		
株主資本以外の項目	133,310	57,026
の当期変動額（純額）		
当期変動額合計	133,310	57,026
当期末残高	92,156	35,129
評価・換算差額等合計		
前期末残高	225,466	92,156
当期変動額		
株主資本以外の項目	133,310	57,026
の当期変動額（純額）		
当期変動額合計	133,310	57,026

当期末残高	92,156	35,129
純資産合計		
前期末残高	16,595,057	17,740,631
当期変動額		
剰余金の配当	962,500	962,500
当期純利益	1,974,764	2,828,630
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）	133,310	57,026
当期変動額合計	1,145,574	1,923,157
当期末残高	17,740,631	19,663,789

[前△](#) [次△](#)

重要な会計方針

	第38期 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	第39期 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1.有価証券の評価基準 及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 総平均法による原価法を採用して おります。</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時 価 法（評価差額は、全部純資産直入法 により処理し、売却原価は、総平均 法により算定）を採用しておりま す。</p> <p>時価のないもの 総平均法による原価法を採用し て おります。</p>	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券 同左</p>
2.固定資産の減価償却の 方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。但し、 平成10年4月以降に取得した建物（建 物附属設備は除く）については、定額 法を採用しております。</p> <p>なお、主な耐用年数は以下のとおり であります。</p> <p>建物 15～30年 器具備品 4～15年</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。</p> <p>なお、自社利用のソフトウェアにつ いては、社内における利用可能期間 （5年）に基づく定額法によっており ます。</p>	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除 く） 同左</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除 く） 同左</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース 取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価 額を零とする定額法を採用しており ま す。</p>
3.引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるた め 一般債権については貸倒実績率によ り、貸倒懸念債権等の特定の債権につ いては個別に回収可能性を検討し、回 収不能見込額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p>

	<p>(2) 賞与引当金 従業員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、社内規定に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績に応じて、各事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためです。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。</p>	<p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 役員賞与引当金 同左</p> <p>(4) 退職給付引当金 同左</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 同左</p>
4.その他財務諸表作成のための重要な事項	(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。	(1) 消費税等の会計処理 同左

会計方針の変更

第38期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	第39期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	(資産除去債務に関する会計基準等の適用) 当事業年度から、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これによる当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。

表示方法の変更

第38期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	第39期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

-	<p>（貸借対照表）</p> <p>前事業年度までは流動資産の「未収収益」に含めて表示していた「未収委託者報酬」、「未収運用受託報酬」及び流動負債の「未払費用」に含めて表示していた「未払手数料」は、表示をより明瞭にするために当事業年度より区分掲記いたしました。なお、前事業年度における「未収委託者報酬」、「未収運用受託報酬」及び「未払手数料」の金額は、それぞれ2,048,181千円、946,091千円、及び952,810千円であります。</p>
---	---

注記事項

（貸借対照表関係）

第38期 （平成22年3月31日）	第39期 （平成23年3月31日）
<p>1.有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>建物 207,904千円</p> <p>器具備品 228,436千円</p> <p>2.保証債務</p> <p>被保証者 従業員</p> <p>被保証債務の内容 住宅ローン</p> <p>金額 27,211千円</p>	<p>1.有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>建物 268,368千円</p> <p>器具備品 248,865千円</p> <p>2.保証債務</p> <p>被保証者 従業員</p> <p>被保証債務の内容 住宅ローン</p> <p>金額 23,314千円</p>

（損益計算書関係）

第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）	第39期 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）
該当事項はありません。	同左

（株主資本等変動計算書関係）

第38期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

（単位：千株）

	前事業年度末 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	3,850	-	-	3,850
合計	3,850	-	-	3,850

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月24日 定時株主総会	普通株式	962,500	250	平成21年3月31日	平成21年6月25日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月28日 定時株主総会	普通株式	962,500	利益 剰余金	250	平成22年3月31日	平成22年6月29日

第39期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

(単位：千株)

	前事業年度末 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	3,850	-	-	3,850
合計	3,850	-	-	3,850

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月28日 定時株主総会	普通株式	962,500	250	平成22年3月31日	平成22年6月29日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成23年6月30日開催の第39回定時株主総会において、次のとおり付議致します。

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月30日 定時株主総会	普通株式	1,424,500	利益 剰余金	370	平成23年3月31日	平成23年6月30日

（リース取引関係）

第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）				第39期 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）			
1.ファイナンス・リース取引 リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権 移転外ファイナンス・リース取引 （借主側） （1）リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相 当額及び期末残高相当額				1.ファイナンス・リース取引 リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権 移転外ファイナンス・リース取引 （借主側） （1）リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相 当額及び期末残高相当額			
	取得価額 相当額 （千円）	減価償却累 計額相当額 （千円）	期末残高 相当額 （千円）		取得価額 相当額 （千円）	減価償却累 計額相当額 （千円）	期末残高 相当額 （千円）
器具備品	4,823	2,009	2,813	器具備品	4,823	2,974	1,849
合計	4,823	2,009	2,813	合計	4,823	2,974	1,849
(2) 未経過リース料期末残高相当額 1年以内 966千円 1年超 1,968千円 合計 2,934千円				(2) 未経過リース料期末残高相当額 1年以内 1,007千円 1年超 961千円 合計 1,968千円			
(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相 当 額 支払リース料 1,070千円 減価償却費相当額 964千円 支払利息相当額 143千円				(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相 当 額 支払リース料 1,070千円 減価償却費相当額 964千円 支払利息相当額 104千円			
(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする 定額法によっております。 支払利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差 額を利息相当額とし、各期への配分方法について は、利息法によっております。				(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 同左			
2.オペレーティング・リース取引 未経過リース料 1年以内 1,609千円 1年超 - 千円 合計 1,609千円				2.オペレーティング・リース取引 未経過リース料 -			

(金融商品関係)

第38期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用事業を行っております。余裕資金は安全で流動性の高い金融資産で運用し、銀行からの借入や社債の発行はありません。安全性の高い金融商品での短期的な運用の他に、自社ファンドの設定に自己資本を投入しております。その自己設定投信は、事業推進目的で保有しており、設定、解約又は償還に関しては、社内規定に従っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収収益は、主たる事業である投資運用業等より発生する運用報酬、委託者報酬が大半を占めております。これらの債権は、全て1年以内の債権であり、そのほとんどがファンド財産の中から支払われるため、回収不能となるリスクは極めて軽微であります。投資有価証券はその大半が事業推進目的で設定した投資信託であり、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。未払費用は投資信託の販売に係る支払手数料と運用に係る再委託手数料であります。未払費用の大半を占める支払手数料は、ファンド財産の中から支払われるため、支払期日に支払を実行出来なくなるリスクは極めて軽微であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、社内規定に従って取引先を選定し、担当部門で取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、投資有価証券の一部を除いて、資金決済のほとんどを自国通貨で行っているため、為替の変動リスクは極めて限定的であります。投資有価証券のうち自己設定投信については、その残高及び損益状況等を定期的に経営会議に報告しております。また、デリバティブ取引についても行っておりません。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、社内規定に従って手元流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません。

			(単位：千円)
	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	10,732,367	10,732,367	-
(2) 未収収益	3,014,380	3,014,380	-
(3) 投資有価証券			
其他有価証券	4,182,854	4,182,854	-
資産計	17,929,602	17,929,602	-
(1) 未払費用	1,472,849	1,472,849	-
負債計	1,472,849	1,472,849	-

(*1) 未収収益のうち、金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

(*2) 未払費用のうち、金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金・預金、並びに(2) 未収収益

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資信託であり、公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負債

(1) 未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 其他有価証券	
非上場株式	291,423
(2) 子会社株式	
非上場株式	1,169,774
(3) 長期差入保証金	743,958

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められること

から時価開示の対象としておりません。このため、(1) 其他有価証券の非上場株式については2. (3) 投資有価証券には含めておりません。

(注3)金銭債権の決算日以後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内
現金・預金	10,732,367
未収収益	3,014,380

合計	13,746,747
----	------------

(金融商品関係)

第39期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用事業を行っております。余裕資金は安全で流動性の高い金融資産で運用し、銀行からの借入や社債の発行はありません。

安全性の高い金融商品での短期的な運用の他に、自社ファンドの設定に自己資本を投入しております。

その自己設定投信は、事業推進目的で保有しており、設定、解約又は償還に関しては、社内規定に従っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

主たる営業債権は、投資運用業等より発生する未収委託者報酬、未収運用受託報酬であります。

これらの債権は、全て1年以内の債権であり、そのほとんどがファンド財産の中から支払われるため、回収不能となるリスクは極めて軽微であります。

投資有価証券は、その大半が事業推進目的で設定した投資信託であり、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。

未払手数料は、投資信託の販売に係る支払手数料であります。また、未払費用は、投資信託の運用に係る再委託手数料であります。

これらの債務は、全て1年以内の債務であり、ファンド財産の中から支払われるため、支払期日に支払を実行出来なくなるリスクは極めて軽微であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、社内規定に従って取引先を選定し、担当部門で取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、投資有価証券の一部を除いて、資金決済のほとんどを自国通貨で行っているため、為替の変動リスクは極めて限定的であります。

投資有価証券のうち自己設定投信については、その残高及び損益状況等を定期的に経営会議に報告しております。

また、デリバティブ取引についても行っておりません。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、社内規定に従って手元流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません。

			(単位：千円)
	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	13,597,002	13,597,002	-
(2) 未収委託者報酬	2,467,550	2,467,550	-
(3) 未収運用受託報酬	939,007	939,007	-
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	4,314,859	4,314,859	-
資産計	21,318,420	21,318,420	-
(1) 未払手数料	1,159,542	1,159,542	-
(2) 未払費用	725,141	725,141	-
負債計	1,884,684	1,884,684	-

(*1) 未払費用のうち、金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、及び(3) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資信託であり、公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負債

(1) 未払手数料、及び(2) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
(1) その他有価証券	
非上場株式	291,423
(2) 子会社株式	
非上場株式	1,169,774
(3) 長期差入保証金	743,455

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められること

から時価開示の対象としておりません。このため、(1) その他有価証券の非上場株式については2. (4) 投資有価証券には含めておりません。

(注3)金銭債権及び満期がある有価証券の決算日以後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	13,597,002	-	-	-
未収委託者報酬	2,467,550	-	-	-
未収運用受託報酬	939,007	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券	-	1,084,621	2,001	-
合計	17,003,560	1,084,621	2,001	-

(有価証券関係)

第38期（平成22年3月31日現在）

1.子会社株式

子会社株式（貸借対照表計上額 関係会社株式1,169,774千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2.その他有価証券

(単位：千円)

	種類	取得原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	1,273,000	1,285,821	12,821
	小計	1,273,000	1,285,821	12,821
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	3,065,000	2,897,033	167,967
	小計	3,065,000	2,897,033	167,967
合計		4,338,000	4,182,854	155,145

(注) 非上場株式（貸借対照表計上額 291,423千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3.当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：千円)

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	-	-	-

第39期（平成23年3月31日現在）

1.子会社株式

子会社株式（貸借対照表計上額 関係会社株式1,169,774千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

(単位：千円)

	種類	取得原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	915,000	933,950	18,950
	小計	915,000	933,950	18,950
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	3,459,000	3,380,909	78,091
	小計	3,459,000	3,380,909	78,091
合計		4,374,000	4,314,859	59,140

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 291,423千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：千円)

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	-	-	-

(デリバティブ取引関係)

第38期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	第39期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当社は、デリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。	同左

（退職給付関係）

第38期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	第39期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>1. 採用している退職給付制度の概要 退職金規程に基づく退職一時金制度のほか、確定拠出年金制度を採用しております。</p> <p>2. 退職給付債務に関する事項 退職給付債務（退職給付引当金） 835,692千円 (注) 退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。</p> <p>3. 退職給付費用に関する事項 勤務費用 144,118千円 確定拠出年金掛金 45,997千円 合計 190,115千円 (注) 退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。</p> <p>4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項 当社は簡便法を採用しておりますので、基礎率等については記載しておりません。</p>	<p>1. 採用している退職給付制度の概要 同左</p> <p>2. 退職給付債務に関する事項 退職給付債務（退職給付引当金） 974,968千円 (注) 退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。</p> <p>3. 退職給付費用に関する事項 勤務費用 143,190千円 確定拠出年金掛金 51,252千円 合計 194,442千円 (注) 退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。</p> <p>4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項 同左</p>

（税効果会計関係）

第38期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	第39期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																																																																				
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別内訳</p> <p>流動資産 (千円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">67,959</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">290,614</td></tr> <tr><td>社会保険料</td><td style="text-align: right;">28,209</td></tr> <tr><td>未払事業所税</td><td style="text-align: right;">5,090</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">9,404</td></tr> <tr><td>(繰延税金資産の小計)</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">401,279</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">401,279</td></tr> </table> <p>固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">339,291</td></tr> <tr><td>投資有価証券</td><td style="text-align: right;">40,700</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権</td><td style="text-align: right;">38,408</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">70,417</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">62,988</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">64,125</td></tr> <tr><td>(繰延税金資産の小計)</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">615,932</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">79,514</td></tr> <tr><td>(繰延税金資産の合計)</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">536,417</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">536,417</td></tr> </table>	未払事業税	67,959	賞与引当金	290,614	社会保険料	28,209	未払事業所税	5,090	その他	9,404	(繰延税金資産の小計)	401,279	繰延税金資産の純額	401,279	退職給付引当金	339,291	投資有価証券	40,700	ゴルフ会員権	38,408	役員退職慰労引当金	70,417	その他有価証券評価差額金	62,988	その他	64,125	(繰延税金資産の小計)	615,932	評価性引当額	79,514	(繰延税金資産の合計)	536,417	繰延税金資産の純額	536,417	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別内訳</p> <p>流動資産 (千円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">122,775</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">337,467</td></tr> <tr><td>社会保険料</td><td style="text-align: right;">29,423</td></tr> <tr><td>未払事業所税</td><td style="text-align: right;">5,234</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">8,570</td></tr> <tr><td>(繰延税金資産の小計)</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">503,471</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">503,471</td></tr> </table> <p>固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">395,837</td></tr> <tr><td>投資有価証券</td><td style="text-align: right;">40,700</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権</td><td style="text-align: right;">38,408</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">53,592</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">24,010</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">72,409</td></tr> <tr><td>(繰延税金資産の小計)</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">624,958</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">79,108</td></tr> <tr><td>(繰延税金資産の合計)</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">545,849</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">545,849</td></tr> </table>	未払事業税	122,775	賞与引当金	337,467	社会保険料	29,423	未払事業所税	5,234	その他	8,570	(繰延税金資産の小計)	503,471	繰延税金資産の純額	503,471	退職給付引当金	395,837	投資有価証券	40,700	ゴルフ会員権	38,408	役員退職慰労引当金	53,592	その他有価証券評価差額金	24,010	その他	72,409	(繰延税金資産の小計)	624,958	評価性引当額	79,108	(繰延税金資産の合計)	545,849	繰延税金資産の純額	545,849
未払事業税	67,959																																																																				
賞与引当金	290,614																																																																				
社会保険料	28,209																																																																				
未払事業所税	5,090																																																																				
その他	9,404																																																																				
(繰延税金資産の小計)	401,279																																																																				
繰延税金資産の純額	401,279																																																																				
退職給付引当金	339,291																																																																				
投資有価証券	40,700																																																																				
ゴルフ会員権	38,408																																																																				
役員退職慰労引当金	70,417																																																																				
その他有価証券評価差額金	62,988																																																																				
その他	64,125																																																																				
(繰延税金資産の小計)	615,932																																																																				
評価性引当額	79,514																																																																				
(繰延税金資産の合計)	536,417																																																																				
繰延税金資産の純額	536,417																																																																				
未払事業税	122,775																																																																				
賞与引当金	337,467																																																																				
社会保険料	29,423																																																																				
未払事業所税	5,234																																																																				
その他	8,570																																																																				
(繰延税金資産の小計)	503,471																																																																				
繰延税金資産の純額	503,471																																																																				
退職給付引当金	395,837																																																																				
投資有価証券	40,700																																																																				
ゴルフ会員権	38,408																																																																				
役員退職慰労引当金	53,592																																																																				
その他有価証券評価差額金	24,010																																																																				
その他	72,409																																																																				
(繰延税金資産の小計)	624,958																																																																				
評価性引当額	79,108																																																																				
(繰延税金資産の合計)	545,849																																																																				
繰延税金資産の純額	545,849																																																																				

<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率</p> <p>との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.6%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">（調整）</td> </tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">1.0</td> </tr> <tr> <td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">4.7</td> </tr> <tr> <td>過年度法人税等</td> <td style="text-align: right;">0.9</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.2</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">38.0</td> </tr> </table>	法定実効税率	40.6%	（調整）		交際費等永久に損金に算入されない項目	1.0	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	4.7	過年度法人税等	0.9	その他	0.2	税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.0	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率</p> <p>との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率</p> <p>との間の差異が法定実効税率の百分の五以下であるため注記を省略しております。</p>
法定実効税率	40.6%														
（調整）															
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.0														
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	4.7														
過年度法人税等	0.9														
その他	0.2														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.0														

（セグメント情報等）

セグメント情報

第38期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1. 報告セグメントの概要

当社は、「投資・金融サービス業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

第39期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 報告セグメントの概要

当社は、「投資・金融サービス業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第39期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客よりの営業収益	24,069,333	3,364,664	112,848	27,546,846

2. 地域ごとの情報

（1）営業収益

本邦の外部顧客よりの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載は省略しております。

（2）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客よりの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

第39期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

第39期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

第39期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

（追加情報）

当事業年度より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

（関連当事者との取引）

第38期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	大和証券株式会社	東京都千代田区	1,000	証券業	-	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	2,590,851	未払費用	385,057
その他の関係会社の子会社	株式会社三井住友銀行	東京都千代田区	17,710	銀行業	-	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	2,955,228	未払費用	259,188

取引条件及び取引条件の決定方針等

1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。

第39期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	大和証券株式会社	東京都千代田区	1,000	証券業	-	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	3,310,157	未払手数料	486,916
その他の関係会社の子会社	株式会社三井住友銀行	東京都千代田区	17,710	銀行業	-	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	3,038,329	未払手数料	232,560

取引条件及び取引条件の決定方針等

1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。

(1株当たり情報)

第38期 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		第39期 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	4,607円96銭	1株当たり純資産額	5,107円48銭
1株当たり当期純利益	512円93銭	1株当たり当期純利益	734円71銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		同左	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第38期 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	第39期 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
損益計算書上の当期純利益(千円)	1,974,764	2,828,630
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	1,974,764	2,828,630
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,850	3,850

(重要な後発事象)

第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）	第39期 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）
該当事項はありません。	同左

[前へ](#) [次へ](#)

4 利害関係人との取引制限

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

(1)自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

(2)運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

(3)通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)および(5)において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。

(4)委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

(5)上記(3)および(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5 その他

(1)定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項

当社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2)訴訟事件その他重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えると予想される訴訟事件等は発生していません。

委託会社の営業年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとし、営業年度末に決算を行います。

[前へ](#)

第2【その他の関係法人の概況】

1 名称、資本金の額及び事業の内容

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

(1) 受託会社

名称	資本金の額（百万円） 平成23年3月末現在	事業の内容
住友信託銀行株式会社	342,037	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

<参考：再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）の概要>

- ・資本金：51,000百万円（平成23年3月末現在）
- ・事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
- ・再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

(2) 販売会社

名称	資本金の額（百万円） 平成23年3月末現在	事業の内容
大和証券株式会社	100,000	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
大和証券キャピタル・マーケット株式会社	255,700	

以上

独立監査人の中間監査報告書

平成23年9月2日

大和住銀投信投資顧問株式会社
取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）の平成23年1月25日から平成23年7月24日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）の平成23年7月24日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成23年1月25日から平成23年7月24日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成23年9月2日

大和住銀投信投資顧問株式会社
取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている大和住銀ジャパン・スペシャルマーケット・コース（ヘッジなし）の平成23年1月25日から平成23年7月24日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、大和住銀ジャパン・スペシャルマーケット・コース（ヘッジなし）の平成23年7月24日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成23年1月25日から平成23年7月24日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成23年6月15日

大和住銀投信投資顧問株式会社
取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和住銀投信投資顧問株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第39期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和住銀投信投資顧問株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、当社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[前へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成22年9月3日

大和住銀投信投資顧問株式会社
取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）の平成22年1月26日から平成22年7月25日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、大和住銀ジャパン・スペシャル ニュートラル・コース（ヘッジあり）の平成22年7月25日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成22年1月26日から平成22年7月25日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成22年9月3日

大和住銀投信投資顧問株式会社
取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている大和住銀ジャパン・スペシャルマーケット・コース（ヘッジなし）の平成22年1月26日から平成22年7月25日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、大和住銀ジャパン・スペシャルマーケット・コース（ヘッジなし）の平成22年7月25日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成22年1月26日から平成22年7月25日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成22年 6 月16日

大和住銀投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩司 印指定社員
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和住銀投信投資顧問株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第38期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和住銀投信投資顧問株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は、当社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[前へ](#)